



▲浜辺の歌音楽館に収蔵されている貴重な旧式レコードコレクションの一部

生涯学習課では浜辺の歌音楽館に収蔵されているたくさんの音楽資料を整理する作業に取りかかっています。長い間収蔵庫に眠っていたのは数百枚におよぶ旧式のクラシックレコード。個人所蔵のレコードが地元ゆかりのふかい浜辺の歌音楽館の収蔵庫に移されて保存されていたもので、バッハやモーツァルト、ベートーベからシューマン、さらにはリスト、メンデルスゾーンにまでおよび、愛

好家ならずとも目を見張るコレクションとなつています。最近ではレコードを見る事もなくなりませんが、収蔵されていたものは一般的なもののより固くもろい材質で、アルバム状の入れ物に大切に仕舞われており、当時は大変な貴重品であつたことが分かります。これらのレコードの持ち主は米内沢生まれの医師である近藤豊治さん(故人)で、帝国大学(現在の東京大学)を卒業後、創設間もない米内沢病院で活躍し、その後近藤病院として開業し地域の医療に貢献した方です。住民に深く慕われた近藤氏は地域医療に貢献しただけでなく、コレクションに見られる膨大なレコードを収集、また、写真や8ミリフィルムなどに当時の様子を多く記録した文人でもありました。市では、多くの収蔵物を整理分類して全貌を明らかにすると共に、時代の雰囲気伝える資料として、後世に残して行きたいと考えています。



▲五城目町出身の齊藤忠生氏らが出演、聴衆を魅了したコンサート「日本の原風景を歌い奏でる」

クリプスという曲が演奏されました。テノールの齊藤忠生氏は五城目町出身で能代高校に進み、白鳥邦夫氏らから薫陶を受けた63歳の異才です。自己紹介のなかで、聴衆に楽しんでもらうために様々な工夫をし変化も辞さないが、ルーツとしてあるのはクラシック歌手としての誇りであると述べ、テレビでおなじみの立川清登氏に自身の心の迷いを指摘されたエピソードを披露しました。また、編曲が曲に新しい息吹を与えることが出来る有効な方法であると言ひ、それはピアノの水戸見弥子さんとのデュオによる浜辺の歌で見事に実践されて、アンサンブルの命であるスピードと切れ味、即興性が遺憾なく発揮されたすばらしいものになりました。聴衆は50人ほどで、文化会館の公演としては多くありませんでしたが、この夜会場に足を運んだ人々は本物の芸術を堪能できたことに深い感動を覚え、満足した面もちで帰路につきました。

5月21日夜、文化会館で「日本の原風景を歌い奏でる」と題して、テノール、薩摩琵琶、尺八、ピアノによるコンサートが開かれました。曲間に詩の朗読やナレーション、エピソードをはさみながらの緊張感溢れる内容で、第一部ではテノールとピアノのデュオによる浜辺の歌、椰子の実、花、母さんの歌、等が、第二部では薩摩琵琶弾き語りによる平家物語からの壇ノ浦や、薩摩琵琶と尺八による現代音楽の巨匠武満徹の工

膨大な旧式レコードの整理に着手

浜辺の歌音楽館収蔵「近藤コレクション」

切れ味鋭いアンサンブルの妙

コンサート「日本の原風景を歌い奏でる」

学びの広場

- 公民館活動 ●生涯学習 ●文化振興 ●学校 ●スポーツ

地域で学び、活動する皆さんを応援します

北秋田市教育委員会

前田寿大学の開講式が5月16日、約60人の受講生が参加し前田公民館で開催されました。はじめに、田中三蔵学長が「今年度も健康で楽しく、生きがいのある活動を目指して頑張りましょう」とあいさつ。

来賓あいさつのあと行われた前田公民館・渡辺美喜夫館長による講話では、歌謡漫談を交えた楽しいお話に会場いっばいの笑い声があふれていました。終わりには民謡手踊り研究会の会員による手踊りが披露され、開講式に花を添えました。

今年度は、日帰り研修、小学生や保育園児との交流

生きがいのある活動を目指して

前田公民館「前田寿大学」開講式



▲渡辺館長の楽しい講話に笑い声があふれた開講式

会、市高齢者大学との合同講座などが計画されており、受講生の皆さんは、講座を通して広がる仲間づくりや学習に期待をふくらませていました。

中学生も一緒に調理実習

森吉公民館「お母さんの家庭料理教室」

森吉公民館で5月17日、「お母さんの家庭料理教室」を開催しました。

市内各地域から20人の受講生が参加して、講師の加賀テイさんから「おやき」と「炊き込みご飯」、「山菜の煮付け」の作り方を教えていただきました。

講座には「職場体験学習」の森吉中学校1年生の生徒3人も参加し、お母さんたちと一緒に調理実習を体験しましたが、材料の準備、調理、後片づけなど料理を作ることの大変さを学んだ様子でした。



▲「おやき」、「炊き込みご飯」などの作り方を学びました

最後に、作った料理を試食し、楽しい時間を過ごしました。

共に学びあい、豊かな人生を

阿仁公民館「生き生き大学入学式・開講式」

阿仁地区高齢者大学「阿仁生き生き大学」の入学式・開講式が5月23日にふるさと文化センターで開催されました。今年度は鷹巣地区からの受講生も加わり新たな気持ちでの大学がスタートしました。

はじめに学長の長岐直介市教育委員会生涯学習課長が「病気などで学べない人もいる。こうした人たちに大学のことを話してくれることで、地域の結びつきが生まれる」とあいさつがありました。

続く学習会では、市福祉事務所の職員を講師に「阿仁地区老後の福祉についての助け合い」と題した講



▲老後の福祉について学んだ阿仁生き生き大学入学・開講式

話を聴講しました。その中で、連れや友人を亡くしたとき1カ月後、3カ月後などの節目の時期に親戚や友人の声かけがとても大事ということでした。